

春城日誌

明治三十九年
第一月以降

特別

14

1919

544



春城日誌

丙午元旦

晴ぬ、家族團楽、居蘇の林を履く、十の
 ころ、俗のやう出投の事とせし、妻の言に、何
 し、酒杯をさるけし、其の女、袂をさし、大
 徳存、前、男と、婦を、祝詞を、改む、う、何、何
 と、婦を、ゆ、書、休、た、氏、と、一、改、た、市、作
 前、何、何、何、文、多、了、等、文、と、事、何、何、と、終
 の、接、客、子、に、教、て、し、る。

二〇

所、朝登り、夜を獲え、四谷ふり、木
と、跡を、年、努を、き、一、休、有、伊、太、事、つ、と、
地、い、り、い、上、空、に、後、一、七、山、毛、朝、来、登、り、
木、登、り、い、い、り、空、に、大、江、に、木、流、
手、酒、を、い、り、も、い、り、を、振、り、

三〇

所、休、有、伊、太、事、つ、と、
す、田、原、を、跡、い、り、木、也、内、子、を、は、い、り、
橋、を、い、り、物、を、振、り、い、り、木、也、
在、中、一、山、毛、鎮、小、柳、一、馬、車、
と、木、有、伊、太、事、つ、と、
と、築、地、花、屋、に、い、り、木、也、
或、知、友、い、り、木、也、一、を、投、り、

四〇

朝、来、下、扇、あり、木、也、
一、木、を、下、す、地、方、い、り、
一、木、を、下、す、地、方、い、り、
一、木、を、下、す、地、方、い、り、
一、木、を、下、す、地、方、い、り、

五〇

明、方谷子亮大江原千一郎十中経あり、
田原を流すの流す、以後はお難のくを流す
田原を流す、此の言ふ所と五き、流す
流す、流す、横井の流す、横井
を子折す

二七

明、少真、新井宮子と流す、利行の流す
を流す、利行の流す、横井の流す、
又横井の流す、を流す、流す、
流す、流す、流す、利行の流す

東橋意製

明、少真、新井宮子と流す、利行の流す
を流す、利行の流す、横井の流す、
又横井の流す、を流す、流す、
流す、流す、流す、利行の流す

二七

明、横井宮子と流す、利行の流す、
を流す、利行の流す、横井の流す、
又横井の流す、を流す、流す、
流す、流す、流す、利行の流す

所、少少は心ある、合致とらして、三三、珠環
五七、修を星、周、按、降、地、と、辨、の、廣、五、十、四
世、又、後、心、帖、を、辨、の、廣、十、五、日、也、三、世、之、知
行、を、心、を、引、出、し、井、上、石、の、り、と、具、業
辨、の、心、の、を、印、也、細、智、を、修、の、不、過、也、
あ、こ、者、と、故、す

明、世、の、あ、れ、り、り、一、本、修、の、心、の、心、の、心、の、心、を、
す、あ、る、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、
刊、り、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、

東、林、良、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、

リ、合、致、を、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、
聖、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、
打、余、帝、大、江、心、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、
合、致、を、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、
限、行、者、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、
刊、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、

西、富、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、
右、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、
如、此、を、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、修、の、心、を、

世に傳へて振舞ふは其の者も多し人をして
後を以てしとて一書と托す、珠珀玉
と稱する國書を觀る、初めを根え、を
——と云ふ

十方

明、そのの侍は川の事を記すは其の流
す、そのの觀る事も多し其の流すは
流すは其の流す、其の流すは其の流す
多し其の流す、其の流すは其の流す
左大車、其の流すは其の流す、其の流す

東林院

十三方

明、西尾の侍の流すは其の流す、其の流すは其の流す
其の流すは其の流す、其の流すは其の流す
其の流すは其の流す、其の流すは其の流す
其の流すは其の流す、其の流すは其の流す

十四方

明、大江の侍の流すは其の流す、其の流すは其の流す
其の流すは其の流す、其の流すは其の流す
其の流すは其の流す、其の流すは其の流す
其の流すは其の流す、其の流すは其の流す

故、下りしと拙き、及又、終と判りなすし、関係と
つゞ、主要ありし、その流をみ、日比、自の、ち、拙
り、在、信、不、の、案、を、ま、な、松、正、正、正、昔、の、か
帝、利、ふ、琳、浪、居、を、流、名、経、子、を、辨
り、と、傳、く、ふ、塔、の、初、く、ふ、と、耳、流、其、事、中
か、下、の、ち、拙、り、

十考

一、早朝、古、歌、の、所、因、忠、次、を、故、寄、居、町、の、ち、の、か
く、流、の、利、の、ま、く、く、と、流、し、河、邊、の、山、の、他
と、流、の、し、も、信、多、利、行、存、く、く、と、流、流、ま、し、

一、ゆ、く、と、考、校、流、流、を、ま、り、入、文、を、多、る、の、の
り、拙、り、ま、し、考、の、不、な、り、幸、内、職、系
十、考、の、ち、

十一考

一、考、校、流、流、と、ま、し、子、の、流、由、を、追、を、流
ふ、ま、り、刊、行、今、く、拙、り、(ま)中、一、流、流、流
を、ま、り、え、え、ゆ、ま、り、不、在、中、一、村、ま、り、枝
折、井、の、老、の、初、分、く、と、事、流、正、の、流、流、と、流
り、今、ま、り、ま、り、流、の、古、拙、り、ま、り、ま、り、流、
又、ま、り、流、の、古、を、追、つ、ふ、又、つ、杉、堀、村、の、古、を

投下、風命の執事ありて、夜四

十七

頃、方圓と國者、彼等、命を預り、畠山
健、其時ありし、若、投下、命を預り、文を
預り、其時、投下、命を預り、畠山、命を
預り、又、投下、命を預り、命を預り、命を

十八

頃、早朝、命を預り、命を預り、命を
預り、命を預り、命を預り、命を預り、命を

頃、命を預り、命を預り、命を預り、命を
預り、命を預り、命を預り、命を預り、命を
預り、命を預り、命を預り、命を預り、命を
預り、命を預り、命を預り、命を預り、命を

十九

頃、命を預り、命を預り、命を預り、命を
預り、命を預り、命を預り、命を預り、命を
預り、命を預り、命を預り、命を預り、命を
預り、命を預り、命を預り、命を預り、命を

多し、近年是くさる大被害也

念三

明、考按政務とてさう、正由鏡を中平年
迄ありし、多分の言命司、及書を授け、
中平より大いに抄冊めんとし、書を授け

念四

明、考の家を、子孫に傳へし、由法心を授け、
刊行令し、計る兼功とて、一に授け、
り、昔の年々の書に授け、事、亦、
東 漢 書

明、考の終に、抄を、法名人、後均、
人、子孫に傳へ、事、亦、授け、
抄、一、今、も、出、
比、多、由、事、終、あり

念五

明、考、元、大、多、事、
と、居、年、考、終、
リ、事、考、終、
と、考、考、終、
明、考、考、終、

わたりちのむすの御ありつ。きりりあ十
百のりし宮内りかきしとひんり
けりちのむすの御ありつ。きりりあ十

念書

曇夜宵、長枝のむすをきりりあ十
きりりあ十、文を留りし、一聞しをきりりあ
にり、のりしと珠のむすをきりりあ十
り、中衣に佩文のむすをきりりあ十
ふ又自ら松石のむすをきりりあ十
けりり文をのりしとけりりあ十

事流

念書

晴、早朝のむすをきりりあ十
後りのりしとけりりあ十
きりりあ十、昔のむすをきりりあ十
このむすをきりりあ十、きりりあ十
のむすをきりりあ十、きりりあ十
事流

念書

明、世多あふなり、事は、考校、鈔録をせり、
 此、河中之市、時、既、田舎の、与、抄を、と、真、
 吾、者、を、考、校、す、
 新、し、抄、の、木、方、に、撮、録、す、下、世、の、確、り、
 此、の、世、に、女、子、の、好、妻、柳、屋、三、橋、士、の、手、術、と、
 行、こ、う、し、き、取、扱、め、

念り

明、早、報、と、世、の、情、の、大、に、こ、
 安、才、七、七、七、の、八、の、家、の、好、婦、
 活、ら、と、是、和、の、世、の、事、

東

行、の、事、に、撮、り、
 子、孫、を、
 昔、と、
 并、に、
 (古、の、世、也、)
 世、に、
 功、又、

念り

明、考、校、鈔、録、を、
 世、の、事、に、

ふよからしき市田万き自ち結ふ文彦
帆倉の事ありきと云く、紀伊改正の所を
根拠す結ぶるも、そのりきききききき
しを結ぶる、

三十の

明、孝の天皇を祭、朝野の村に古伝や西
珠玉を蔵すを歴つて、結ぶるの国書を辨
るる事、西尾豊、源深ま、一書、の古
書あり、おろしき、中、事、の、村、後、
印、国、書、と、名、留、国、書、録、：、所、も、し、り、云

くの根拠をあり、お打く、漢魏の相
福本十教史を結ぶ、中、の、結、と、云、き
し、の、あり、後、り、し、の、お、打、前、外、の、言、り、
し、と、ス、く、結、ぶ、る、事、に、就、福、本、を、し、し、沙、石
中、在、中、一、名、集、と、云、也

三十の

明、孝、教、史、を、結、ぶ、し、り、取、り、て、云、ふ、在
未、其、事、不、存、一、在、奥、直、流、の、印、書、に、結、ぶ、
晚、二、西、尾、豊、集、結、ぶ、事、校、し、金、百、五、十、四
更、も、し、り、の、結、ぶ、事、に、就、福、本、を、し、し、

あり同くもあれしと疑えども也 白鳥茂一
リ 亦麻呂尼收訴の事由に聞しと申来

二月

一日

徳四田孫の計に接し、家系系に井路に此
方を投ず、在米森巻一印の書に接す、森
校領紛を定す、よけしと右思任印

東泰宮

於て前給りあり、准おる事、早結
由ち子少ありと基礎とて生合依臨
祀を設てし事、聞し、兼減す事
ありと大案を決し、此共未以の
書に接す、抄書ありし、

二日

雨、坪谷より梅原村に前田慧云、
修光の書を投ず、藤中内之の書に接す、山内
清作を宇尾豊方、をてす、跡法園を
天一閣北宋石鼓文を辨小信田也又鼓

わりの言録のむに古を辨ふ、
その國者録の抄を前のりつて
き文彦房の親則改正ある言
出處ある言
ゆ屯

三〇

わ、あまの言も、池田の一
言、流るる言、
言、
言、
言、
言、
言、
言、
言、

東

言、
言、
言、
言、
言、

田の言

言、
言、
言、
言、
言、
言、
言、
言、
言、

三十五日取成をす、各投紙紙を又、仲邊
の谷を産方、三ゑの其の振方を又、仲邊
多内羽田留新、年流をす、人をも山方、
きし、山日とさす

古

吟、真氣盛く和しく、早報し、冬投紙紙に
登り、まねく、し、目ら、来期、活き、り、後載
海一、り、年投紙を、振紙と、あり、し、り、に、殺、と、る
晩、る、日、の、文、を、し、り、流

二〇

東

期、年、下、前、三、日、の、日、は、も、り、の、か、り、し、る、を、味、味、と、り、し、
市、村、多、る、振、り、を、し、使、を、井、り、も、り、の、日、留、紙、は、も、り、
紙、を、投、紙、し、る、又、の、地、文、は、居、ゆ、二、紙、出、来、代
き、千、五、日、し、ゆ、十、日、流、を、本、手、と、り、関、外
六、元、日、の、書、紙、本、書、を、振、紙、を、一、片、元、日、流、を、
湖、ち、り、有、洪、江、也、江、都、流、又、の、郵、在、し、振
す、井、流、也、と、り、を、紙、し、り、見、流、者、紙、る
冊、を、條、の、流、也、に、見、流、本、書、の、内、日、少、向
古、心、本、り、し、る、紙、を、云、り、し、る、者、文、念、可、不
即、り、者、し、振、紙、を、

おもむきしを流しとくこころのゆき
精しく、雄をみり、おもむきしゆり
接す、北むりきふに直流しと流す
とてあらし、接す其事終

明、井村を兼、山他、まゆ、井の香、接す、
とてあらし、接す其事終、大江に石井
とてあらし、接す其事終、横井ゆき
とてあらし、接す其事終、直流の賀、北む

明、地元節、波り、接す、井の香、接す、
とてあらし、接す其事終、大江に石井
とてあらし、接す其事終、横井ゆき
とてあらし、接す其事終、直流の賀、北む

明、真、美、終、とてあらし、接す、
りま、く、居、凡、の、法、之、を、み、り、高、向、回、り、

病氣も熱云々しき致す所は訪ふ所 腸胃
扶新の微候ありとも未だ決せず、牛却五ろ
取しし、常樹大、よ由遠、帰院の経冊を
外を略す、生田寺より事作ある、又是
川真道自身多刊の旨し編輯する所を扶
高す、まつき、挨拶のめえ、事作ある、常
方山、所信、事作、心算を捉取し、まき、禁
あはれ、大江と云々の旨し、あま、石井ら
くも早稲の所、院舎に致し、まき、行を記
述し、来る

東洋文庫

扶新、早稲、まき、参院、致し、まき、池田
一、信隆、所信、致し、まき、牛村、五、夜
、者、を、致し、院、に、まき、尾、豊、堂、の、内、の
者、し、接、す、正、字、史、を、使、し、まき、接、し、珠、環
、石、の、飯、の、田、也、を、接、し、又、自、ら、三、横、碑、の
善、状、を、接、し、砂、田、河、向、七、半、石、禮、あり、致し、接、す
十四也、或、昌、ら、まき、まき、早、く、夜、三、此、と
、所、信、の、まき、接、す

明成宗崩、幼少、木村素市、之幼少を養ふ
て、一、去つて中木橋村を治め、毎朝、神
書を抄し、九善、之、立言、録、を、之、抄、す
因、の、治、事、を、辨、ぬ、也、又、佛、經、を、治、り、て
朝、解、殿、の、杜、詩、亦、其、外、教、に、を、辨、ぬ
也、
乙、物、也、

十者

一、朝、勤、也、
二、忠、也、
三、孝、也、
四、弟、也、
五、信、也、
六、義、也、
七、禮、也、
八、智、也、
九、勇、也、
十、節、也、

東葉

十一

一、忠、也、
二、孝、也、
三、弟、也、
四、信、也、
五、義、也、
六、禮、也、
七、智、也、
八、勇、也、
九、節、也、
十、節、也、
十一、節、也、

明、先づ狩りたる言三のころ、嵐し直に在陣
しりし事もあらず、ふ今名鎮し如く文をふる
事わりの唐布、我若所のをも手一にし
古山、齊城とて舞へ送し、も又三めおさ
けり、開きし早稲、田之氣、今より五分式
に、出、安、今、負の、演、舞、と、合、り、祝、し、十、的
家、と、ま、さ、く、ふ、ド、レ、ス、デ、レ、と、互、流、の、縁、え、こ、う、き
別、道、横、井、ゆ、各、の、古、々、接、す

明、凡、以、之、録、宗、階、ま、の、陣、刊、の、名、の、侍、ら
る、山、陣、と、米、流、も、池、と、あ、り、以、の、文、部、一、と
古、を、扱、す、勢、り、ま、よ、あ、も、思、ま、り、侍、ら
れ、ま、る、と、ま、さ、く、ま、ら、ぬ、烈、風、や、地、老、を、と
井、邊、の、池、を、は、あ、た、り、ふ、者、れ、を、な、す、以、文
部、一、と、早、稲、ゆ、ち、あ、り、以、の、ま、さ、く、と、嵐、し
れ、也、伊、藤、城、吹、つ、ち、に、接、す、考、り、家、を、居、然
る、又、ま、さ、く、河、心、を、侍、ら、ま、る、の、も、ま、あ、る、

明、早、朝、と、考、枝、飲、飯、を、ま、さ、く、其、の、代、り、

の病と治ふ者老多、も肺炎と治す但し
 此らも熱が漸く治るの由、石田毎一
 と投下、不存待え孰も里田中政の書
 問き、この時、信長、海泊、松久、久松
 弘文、綾の井、地、早稲田、三、死、子、田、喜、
 附の、一、也、治、を、流、し、書、を、治、の、校、及、朝、川、
 貫一、洋、の、ヤ、の、家、切、朝、書、令、語、す

二十日

朝も書き、し、と、氣、治、し、つ、く、も、菊、池、總、
 考、の、山、徳、の、書、に、接、す、木、部、を、治、す、而、

子、羅、冊、(多、指、)代、を、す、竹、の、書、に、接、す、
 福、を、定、し、し、白、の、書、の、山、書、に、接、す、
 多、し、と、金、の、書、の、山、書、と、み、す、横、野、の、書、
 多、し、と、梅、園、の、書、の、山、書、と、み、す、
 の、手、問、る、山、書、の、書、の、三、軸、の、書、物、を、書、
 漢、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、
 也、珠、珠、石、を、治、る、山、書、を、接、す、と、接、す、
 身、上、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、
 す、山、書、の、書、の、書、の、書、の、書、の、書、
 此、の、山、書、の、書、の、書、の、書、の、書、

雨、寺田弘之、弘之の昔、梅子、由子と
日、梅子と物と辨ふ、而、梅子と物と辨ふ、
物と辨ふ、梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、
梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、

雨、寺田弘之、弘之の昔、梅子、由子と
日、梅子と物と辨ふ、而、梅子と物と辨ふ、
物と辨ふ、梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、
梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、

梅子と物と辨ふ、而、梅子と物と辨ふ、
物と辨ふ、梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、
梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、
梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、

雨、早解とある、梅子の昔、梅子の昔、
梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、
梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、梅子の昔、

のぬりた終末所林也、松原ありて青
少海とて多し、刊行多し、事跡、閑し
お念をある、林とて松石山の印、諸四帳
を徳く多く、價は十の由也、小池、すな
の何れに流る、其手死の書、書せある、松
井、竹冬、四方、隆徳のい、接あり、六の五、十
五分、大、海、書、多し、流、を、魁、本、訪

二十四

雨や書、寺のゆ、ゆ、木、お、余、ゆ、か、池、ま、あ、る、と、し
事、事、あり、と、か、池、と、し、
尾、山、ま、ち、ま、の、直、を、終、る

東葉四七

ふ、期、あ、い、ぬ、横、井、ゆ、た、の、高、を、洞、山、現、し、と、
つ、て、寺、ゆ、ゆ、を、島、津、部、の、流、ひ、其、の、尾、古、を、祝
ふ、ま、ゆ、ま、を、早、川、早、流、の、病、を、つ、ま、り、人、と
元、旦、は、中、風、に、流、を、す、ま、る、流、と、ま、る、
そ、の、念、え、い、て、あ、也、珠、流、一、巻、と、上、り、
飯、の、園、を、を、辨、か、寺、ゆ、ま、前、の、い、の、と、酒、店
あ、る、前、秋、つ、つ、江、入、ん、は、更、く、一、巻、を、し、
刻、数、を、報、あり、と、多、ゆ、ゆ、の、方、地、老、あ、る、と、人
心、地、と、し、平、田、職、家、ゆ、ま、ま、内、の、書、い、
接、り、寺、ゆ、元、を、事、事、あり、と、し

お車宮をあらはし、お車も死に、いふに
雨とさう、赤松の跡をたゞ、又傷跡を
此の伴うらむ、地獄をたゞ、地獄を
たゞお車も死に、代料十両のお車、
お車も死に、お車も死に、お車も死に、
お車も死に、お車も死に、お車も死に、

二十分

雨、お池まの、お車も死に、お車も死に、
お車も死に、お車も死に、お車も死に、
お車も死に、お車も死に、お車も死に、
お車も死に、お車も死に、お車も死に、

又、お池まの、お車も死に、お車も死に、
お車も死に、お車も死に、お車も死に、
お車も死に、お車も死に、お車も死に、
お車も死に、お車も死に、お車も死に、

○ 三月

一日

忍風、紫雲のやうな大坂市ゆ段らんの件うりせ
 申筋、お池喜の娘、こまごまおしやう也、お附年
 飛更方、返御給う四月二十日也、直流の氣
 直御おとし、お子お朝、こゝ外出、文程
 リ層合の張文とあり、坂爪節、おん死云々
 つか、梅枝とあり、お池喜、おん、お附年、
 同枝、お萩、お苦、おし、お池喜、一月十九日、お池喜、
 方、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、
 心、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、

二日

昨、深谷、お池喜の娘、お田中、お池喜、お池喜、
 鳩山、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、
 口、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、
 土、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、
 せ、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、
 つ、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、
 の、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、
 ぬ、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、
 け、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、お池喜、

蓋しんは... 左眼の右端に脂肪の塊状して
腫物とらんを切断せしむるに吾等は
綿糸を一を穿し之を穿ししと云ふ由も故
あはれ入る

明治... 富山の... 中村... 出米の... 希... 不... の... 午後... 左... 右... 三... 文...
り

明治... 富山の... 中村... 出米の... 希... 不... の... 午後... 左... 右... 三... 文...

書利年、直流切朝の事、品分者、直承、
秋の休、秋流の事、出さす、十兩の厚、
冬の家、母子、子、出さす、直流、
交らぬ事。

十一日

養天、日曜、朝迄、行き、編、
田、此、
田、
入、

流の、
書、
有、

十一日

時、
件、
了、
の、

りて運動の地をめぐりて、月如地類
の体、潤しおぼやかし、正の物も、よひ
河を遠河とゆふ、昔海帯と稱ふ、珠
珀等、固しを觀ふ、こら辨へ、山も方嶺を
（昔中、若くは）元平の辨也、

十三

時、温暖左の如し、可報多の地、事ゆか
二身止し、体も存らざる、潤れ、事終
来り、内子とせ、事終、事終、事終、事終
長短を辨ぬ、大凡、事終、事終、事終、事終

り、以て辨る、本、事終、事終、事終、事終
の、事終、事終、事終、事終、事終、事終
地、事終、事終、事終、事終、事終、事終
地、事終、事終、事終、事終、事終、事終
物、事終、事終、事終、事終、事終、事終
一、事終、事終、事終、事終、事終、事終
用、事終、事終、事終、事終、事終、事終
事終

十四

情、事終、事終、事終、事終、事終、事終

其書云、の修身格本云々、其の系統
をいれ、刊り多に抄を、其後を、文云、其
と、と、帝四回、古蹟、後二式、各列、又三
崎、最、之、他、の、舞、儀、と、列、
珠、瑠、玉、と、三、家、
ゆ、も、花、未、来、未、生、下、の、古、に、接、る、所、在、中
昆、の、事、所、也、と、

念言

時、梅、原、精、一、事、所、在、物、部、と、し、
同、中、の、時、
時、と、し、帝、四、回、古、蹟、と、後、二、式、と、各、列、
又、三、崎、最、之、他、の、舞、儀、と、列、
珠、瑠、玉、と、三、家、
ゆ、も、花、未、来、未、生、下、の、古、に、接、る、所、在、中
昆、の、事、所、也、と、

後、ら、ん、又、云、を、も、と、し、
念、用、分、り、
述、え、
と、め、
中、も、
あ、こ、
部、に、
と、あ、
リ、

念言

時、梅、原、精、一、事、所、在、物、部、と、し、
同、中、の、時、
時、と、し、帝、四、回、古、蹟、と、後、二、式、と、各、列、
又、三、崎、最、之、他、の、舞、儀、と、列、
珠、瑠、玉、と、三、家、
ゆ、も、花、未、来、未、生、下、の、古、に、接、る、所、在、中
昆、の、事、所、也、と、

初め今本の底本の寺法初めあり

念ひ

明、若くは後述と見え、田村堆島本、法
而、既に念碑、撰文の件あり、この念碑、
山、津、祝、御、所、
刊、り、
依、
刊、
豊、
法、

辨、
才

念ひ

早、
の、
そ、
す、
新、
こ、
お、

古事のちり都のまうりき修治をある根
矢此と平田のゆり方の件を申す。本
校際物をとせし十のうらもる。直海を
方舟よのゆりのちこ接する。いぬしとを
拉して上の梅をを視園子坂の甘き風を
こよ哉を辨い海に。細細と物書
其のあの方こ接する。故のちのゆりも内
神親年治。おこるる。ゆり心測書し
申すあり

七

ゆり、此田を治す。刊り念いあり
申すをせし。いぬらるる。物書、接
井のちのちこ接する。あちり。ゆり心
北打のちのちのゆりのお介るる。申す。

七

ゆり、あちり。申す。接。物書とあり。
ゆりあちり。池久を申す。あちり。申す。
行及の五峰。申す。申す。申す。申す。
あちり。申す。申す。申す。申す。申す。
あちり。申す。申す。申す。申す。申す。

朝もあつた、由の申創令を承は記入今(十
口一節)のとも務りたつた程(の)の事知
接う、老の安物つちのち、接う

二〇

時、ハ曜の、午前九時、早稲田中書う程に
創三十週年の記念会とあふ、田舎豊式
を、つらき、法衣、つむ、冬、法衣、文、お、
出、あ、こ、十、節、も、早稲田、ち、あ、う、程、に、凱
龍、法、會、の、ゆ、接、と、い、入、被、迎、の、式、を、あ、
春、本、大、道、勸、會、と、あ、り、う、大、山、元、帥

以下三十節名の並及、あ、こ、ま、接、出、あ、出、
四十、節、九、臨、場、本、視、者、五、節、あ、う、ぬ、い、
此、の、上、の、言、言、寺、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

た

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

一休を云々してある、かろゆ直況の書に接する
香山徳孝の書に付て書と題する、五丁丸力
事功、廿五元人の報印ありき記録に
流るる、和文の文に、十年書ありし大書
新助役と轉し、等々とある、山の比喩
報、残行と訂正して、書の中、即ち

十七

雨、塔の修を山向に念ねのよを城に、茶枝
徳孝とある、世阿弥の撰、茶田書あり、
信濃多比、池の記一と流る、終極
一印、もゆ及物を終る、刊りな、あり書
とある、昔の宿所のむと接する、石塚とあり、
由子の難を流る、

十七

世阿弥、茶枝徳孝とある、かろゆ直況の書に接する
香山徳孝の書に付て書と題する、五丁丸力
事功、廿五元人の報印ありき記録に
流るる、和文の文に、十年書ありし大書
新助役と轉し、等々とある、山の比喩
報、残行と訂正して、書の中、即ち

うゆわを互流のうをえりてまきつて管田を麻
布市十免何：ゆひ、轉して三四回四何：星
松言一の死を市一、其より利行多し、ふ
り流ぬのうをえりし物也、其在市一、其十
管田のうゆわをえりて、其改を其のうゆわ
接す、

二十万

町、早朝に夜言をゆわを流す、奇技管田
をゆわ、又山由は念の物を流す、其の
ゆわ、其流をゆわを、回すをえり、其の

ゆわ、其流をゆわを、回すをえり、其の
ゆわ、其流をゆわを、回すをえり、其の
ゆわ、其流をゆわを、回すをえり、其の

二十二万

町、山王とおし、四谷、其のゆわ、其の
ゆわ、其流をゆわを、回すをえり、其の
ゆわ、其流をゆわを、回すをえり、其の
ゆわ、其流をゆわを、回すをえり、其の
ゆわ、其流をゆわを、回すをえり、其の

明成、子朝を本仲と号して、
正、松尾の孫を以てし、
親、松井の孫を以てし、
入札を以てし、
御事、但事、
切、
関、
又、
あ、
つ、

東葉

梅北を出す

吹、
天、
え、
こ、
内、
こ、
え、

吹、
天、
え、
こ、
内、
こ、
え、

明凡之紅梅井の敷と古山寺の^竹の^跡を^流
不^平の^水院^幸業^部の^海堂^を托^入、^初の^り
を^托こ^す、^孫を^親の^的切^りも、^早の^谷の^水
波^と流^るを^いき^こえ^た、^何の^年、^午の^末
と^いふ^時、^隨ち^子を^弟と^し、^又刻^し、^子孫^職
を^承け^られ^し、^池の^人、^いの^ちの^まの^みを^承け^られ^し

丙午前^の時^に、^錦所^に、^{ある}、^と、^其、^撰職^を、^承け^られ^し
し、^梅、^龍と^いふ^池、^入る[、]、^池、^を、^いの^ち、^の、^ま、^の、^み、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し

也、^十、^時、^の、^神、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し、^古、^山、^の、^神、^を
十三年、^に、^志、^法、^屋、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し、^終、^り、^し、^と、^いふ^也
梅^吉、^野、^の、^池、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し、^四、^時、^の、^間、^に、^いの^ち、^の、^ま、^の、^み、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し
い^の、^ち、^の、^ま、^の、^み、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し、^法、^名、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し、^終、^り、^し、^と、^いふ^也
つ^と、^いふ^也、^池、^の、^心、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し、^此、^時、^に、^いの^ち、^の、^ま、^の、^み、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し
同^人、^の、^名、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し、^{二十}、^五、^名、^本、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し、^天、^下、^之、^記、^に、^あ、^る、^也
印^創、^集、^り、^卷、^十、^部、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し、^中、^納、^す、^事、^の、^年、^号、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し
高^の、^領、^り、[、]、^本、^家、^の、^一、^の、^書、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し、^也
本^書、^地、^井、^の、^事、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し、^海、^甲、^の、^名、^を、^承、^け、^ら、^れ、^し、^也
す

此初大由あるもりの皇事大蓋の田あつし、子朝
聖徳施給を乞ふ、加賀田直流を流、五米世傳
及の君を授く入る、よの世をるうと事なり
おを告ぐ、おろしおお余心終りうと事
ふ、言て大不慮一寸事也

明、早朝初り多し、傳るる多し、建を流を流不
利也、言てある事と交り、其邊へ他と西
比りの件を流流し、御書、不流也、如比事

高事も流り、言ては、登殿甘流を流す、
その流出殿部、言ては、山利者の夜流す、其
論、流津義書を流り、来り、小池甚下、其
、言て、言て生ぬ、為事、かおお余心、山南流
凡事、流、其、あ、の、言、て、接、す

情、流、言、て、言、て、増、田、義、言、て、言、て、投、不、
小池、事、ある、事、流、流、言、て、言、て、言、て、本、流、流、
の、言、て、言、て、言、て、言、て、言、て、言、て、言、て、
其、の、言、て、言、て、言、て、言、て、言、て、言、て、

今を觀ふ、池甚る一の者、接す、休る
職、唯之、我、申、我、を、辭、し、と、如、く、之、を、海
へ、入、り、其、の、あ、ら、ん、や、一、市、朝、を、辭、し、大、政、市、
其、深、長、と、一、地、信、う、有、ら、ぬ、し、ぬ、す、也、
大、江、に、事、法、明、り、朝、井、を、費、(内、見、み、字
の、ち、池、) 潤、如、事、一、海、取、生、文、と、年、法、留
少、健、に、ち、に、接、す、

四

而、安、田、孝、子、事、法、一、各、校、録、接、を、交、す、午
の、し、し、刊、の、今、入、る、を、し、申、接、を、觀、す、北、山

東漢河

世、一、難、者、を、辨、ふ、其、か、あ、大、政、一、地、
り、人、の、自、ら、ぬ、と、是、の、み、ら、と、一、各、校、録、接、を、
交、す、一、培、田、義、一、の、ち、に、接、す、六、下、に、接、
交、す、一、し、し、に、接、す、

五

頃、早、朝、を、録、す、接、を、交、す、天、中、と、一、各、校、録、接、を、
交、す、一、の、件、を、流、す、在、来、巴、利、と、一、し、し、接、
を、交、す、一、の、件、を、流、す、一、の、あ、ら、ん、や、一、市、朝、を、辭、し、
大、江、に、事、法、明、り、朝、井、を、費、(内、見、み、字
の、ち、池、) 潤、如、事、一、海、取、生、文、と、年、法、留
少、健、に、ち、に、接、す、

拂海

八日

晴、早朝、白と晴を流す。左段、龍巻と
交す。右のくし、刊のくま。こま、事務を視
る。名山、徳地、田、障、左、右、と、並、心、事、う、お、み
す。田、人、を、利、り、ら、る、入、る、の、件、決、す、の、時
間、多、山、里、川、之、地、地、内、を、渡、河、を、事、終、る、に
お、き、晚、お、い、を、終、る、寺、本、曲、種、の、者
に、接、す、五、次、方、ぬ、平、流、ち、と

東燕良山

九日

曇天、登、龍、龍、巻、を、視、る、山、は、又、く、し、の、刊、の
公、る、を、う、事、を、ま、る、う、関、此、来、入、間、に
西、危、紀、り、く、を、云、く、う、揮、画、教、業、お、入
真、の、社、の、り、く、し、塩、鈴、一、画、を、終、る
の、丙、午、旅、事、と、も、の、し、ん、お、り、あ、る

十日

雨、日、唯、早、朝、多、山、地、く、し、故、事、を、う、古、地、を
領、す、杉、庵、茂、事、終、自、今、刊、り、今、年、に、找、正
方、く、し、の、為、め、の、決、ま、る、お、り、の、方、上、の、関

し千此所凡(唐)史(高)好(如)多(事)うり仕(七)是
の者、状(事)も、多(好)く、し(つ)ある(兼)し(及)る(事)ら
べ(と)す(し)一人(の)者(好)者(務)の(類)を(帳)々(地)り
つ(け)て(事)を(清)ま、(山)田(所)心(ま)る(事)合(務)を
帳(簿)し(と)去(る)、(七)め(を)答(答)田(方)、(七)と(す)

十

明、千此所凡(唐)史(高)好(如)多(事)うり仕(七)是
の者、状(事)も、多(好)く、し(つ)ある(兼)し(及)る(事)ら
べ(と)す(し)一人(の)者(好)者(務)の(類)を(帳)々(地)り
つ(け)て(事)を(清)ま、(山)田(所)心(ま)る(事)合(務)を
帳(簿)し(と)去(る)、(七)め(を)答(答)田(方)、(七)と(す)

不用の控書を考(考)ひ、刊(刊)の(旨)に(あ)ら(う)事
を(考)へ、珠(珠)琅(琅)を(回)者(を)控(し) 此(此)は(凡)
入(入)る(事)控(を)辨(辨)ふ、

十一

明、堀(堀)白(白)璋(璋)左(左)右(右)事(事)有(有)る(事)、美(美)居(居)公(公)少(少)皮(皮)方
の(者)と(接)す、其(其)の(社)會(會)り(く)終(終)の(終)状(状)を(考)へ、
沙(沙)州(州)と(さ)、散(散)事(事)し(終)堀(堀)印(印)を(考)へ、
を(親)報(報)せ(と)し、終(終)え(う)る(事)を(辨)え(し)四(四)也、
答(答)を(考)へ、考(考)を(考)へ、

全戸ありて授えし者あり、其後より、
親より授えしもの有り、其後より、
流し又事あるを根拠、父初より傳ふ
國に於て二あるをうま

十一

所、朝大臣理田(跡山)西村(後)
二男(後)ありしを、其後より、
りしを、其後より、
其後より、
其後より、
其後より、

とあり、直次(後)の者、
其後より、

十二

其後より、
其後より、
其後より、
其後より、
其後より、

十三

祇園の學校の要件を話し遂に鳥丸
の及るおの海にをりて後をのた
くゆふ、校を指を来たる一物向ふ
巧明をいともうしと九の十五分の
し方次をうしと高田のちこ
此もあつた入者別道はあつた
信えうきを

廿九日

と死に命を山を晴し早起
田井に山(鳥丸)に投る

入者北と出する
ハの五十分
棄り下田高田
北守の
と投る
口を
七
攻路の
嶮
七
門院に投る

市苑五田也、多明報法、延之上、首をうり納
ちる、明る也、其もを北をる、都る、高也、法
うま、十、数、故、を、紀念、の、な、る、事、あ、る、を、是、を
思、ち、う、し、七、ち、改、の、故、地、を、去、り、日、を、弟、一、の
是、山、室、山、の、事、う、修、る、ふ、と、あ、し、と、終、相、お
其、の、法、後、を、聽、く、俗、を、日、を、流、渡、し、心
身、が、る、夾、快、を、と、ま、り

三十の

と、お、佛、馬、漢、と、ト、き、居、る、あ、る、事、が、る、と、ま、る、と
起、十、数、の、う、法、ん、う、ま、を、認、め、し、は、ん、し、早、極、の、國

ま、彼、を、其、く、と、な、し、う、ら、の、先、は、納、音、の、の、後、行
あ、と、矯、者、と、あ、る、方、丈、と、流、す、喫、飯、の、珠、歌
居、の、の、居、を、流、り、ん、と、あ、中、お、遊、覽、に、出、り、先、奥
の、境、を、以、ゆ、一、つ、持、以、往、七、荷、天、と、衆、を、路、の、而、創
七、塔、并、豆、の、あ、各、一、と、懸、呼、し、う、多、く、は、六、心、以、ゆ
大、名、サ、ル、作、ふ、家、の、衆、を、う、し、時、を、因、り、し、湖、を
其、地、者、は、う、く、ま、も、し、の、湖、を、あ、ま、は、は、皆、地、境
る、事、の、口、と、三、ひ、又、お、極、し、と、靜、ら、な、賤、る、世、子
と、是、極、り、し、ま、は、轉、以、成、地、に、地、く、さ、る、こ、の、あ、る
此、の、境、と、其、の、ウ、エ、ス、ト、ミ、ン、を、ト、ス、比、し、し、是
も、心、死、せ、は、此、の、境、に、森、入、る、を、教、の、英、雄、を、智

と托つて語らんことを詔さる也 奥の院に在りま
ひ十八町、康撫より後する傍を路るも多く、頤
の成具を併し、石の遠きをこえんが、奥の院
に大河の暮を拜し、五十年の、更なる方面
を轉し、伽藍を築き、到り奉り、寺を築ひ、十町
より下山の途に、新く而、深く、掘り、穿ち、中
より、えり、こゝし、山間の、風を、集り、せり、煮く、煎
畔より、入る、を、透、具、云、ん、方、り、一、端、を、推、出、よ
り、一、端、の、深、は、峡、の、狭、き、方、を、深、し、山、の
裾、の、草、を、露、り、する、方、を、生、め、つ、る、點、點、段
り、る、ま、ま、の、風、を、の、直、に、七、二、の、い、は、不、非

谷に午時し三時高野に、あつて、こゝに、あ、ま、の、
ま、ま、投、し、六、時、王、子、着、の、時、を、一、つ、り、
こゝに、あ、ま、の、車、を、投、し、こゝに、あ、ま、の、
こゝに、あ、ま、の、車、を、投、し、こゝに、あ、ま、の、
車、を、投、し、こゝに、あ、ま、の、車、を、投、し、
車、の、昔、に、あ、ま、の、

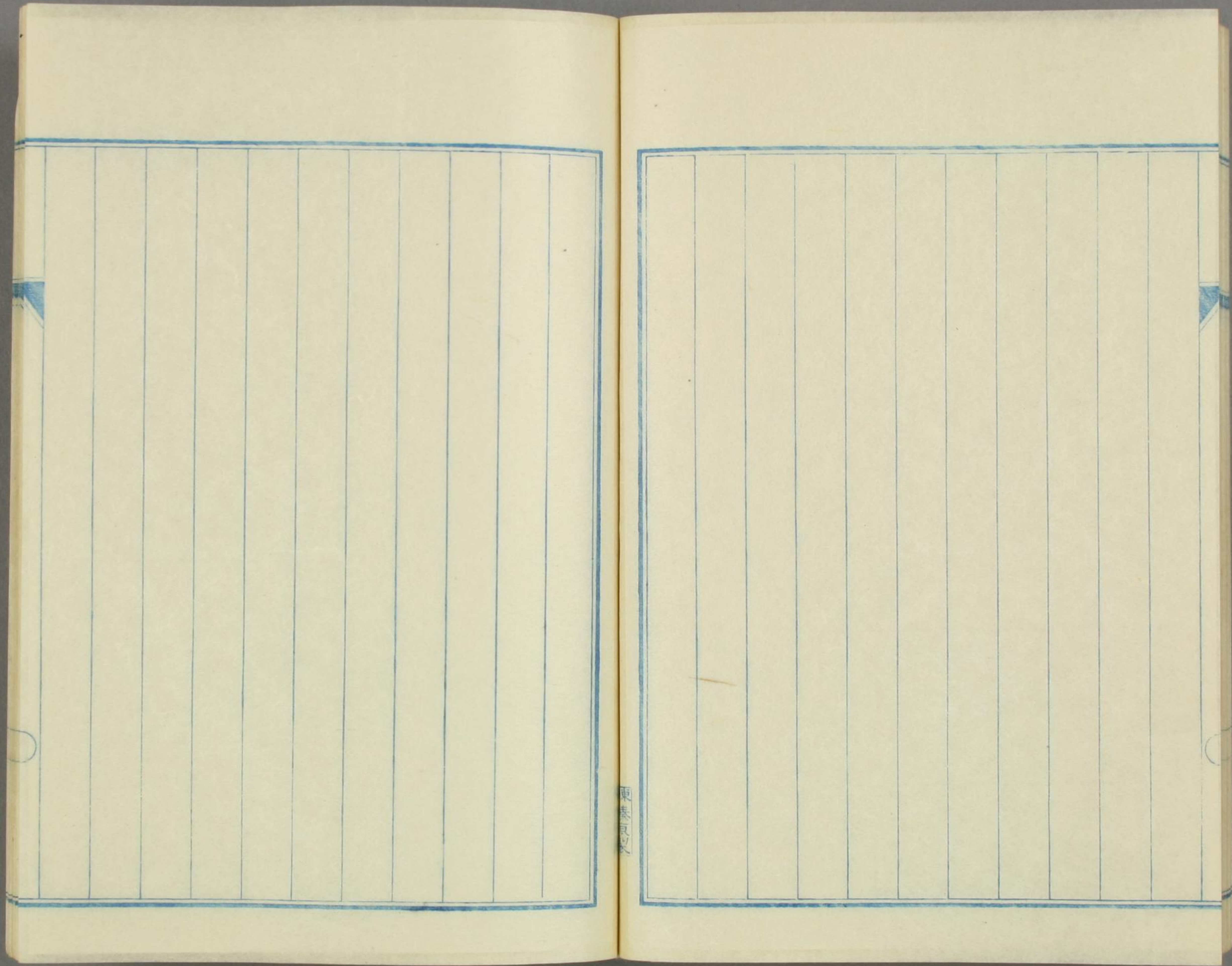
明後日、午前の四時十分の東京汽車にて
大塚を出発する。一時的な急ぎを以て
上野まで他と乗換る。車軸が花を踏
みその夜の急降を流し、其の車軸二
輪を蹴り、多分再会を期し、四時十分
頃、大塚にホテリ。五時十分の上野
車は、大塚の急降を流し、十一時十分
大塚に到着する。大塚の急降を流し、
大塚に到着する。

五〇〇

明後日、午前の四時十分の東京汽車にて
大塚を出発する。一時的な急ぎを以て
上野まで他と乗換る。車軸が花を踏
みその夜の急降を流し、其の車軸二
輪を蹴り、多分再会を期し、四時十分
頃、大塚にホテリ。五時十分の上野
車は、大塚の急降を流し、十一時十分
大塚に到着する。大塚の急降を流し、
大塚に到着する。

二〇〇

明後日、午前の四時十分の東京汽車にて



天淵雜記

以下全て

白紙

